

卯月会の活動について

卯月会事務局長

衣笠 陽雄 陸自69

●三笠宮崇仁親王殿下一年祭

衣笠陽雄

平成29年10月27日、豊島岡墓地において皇族・御親族等の関係者が集い、昨年お亡くなりになられた三笠宮殿下の一年祭が執り行われた。これに先立ち坂倉宮務官から、「皇族等のお祀りの後一般の方も範囲を限定して参拝を計画しているので卯月会で殿下と特別の関係あった方で希望される方あれば」との連絡を頂いた。人数は最小限でとのことだったので、昨年の最後の活動に参加した会員に連絡した結果、秋山、畑、弘田、逢坂、木村、唐木、高橋（幸）・衣笠の8名が参列した。

当日15時、皇族方でのお祀りが終り墓地から退去された後、一般参列者（約110名）は休憩所に向かい宮務官から説明を受け、バスで逐次三笠宮家墓所に前進した。墓所は参拝のため清められ清々しい雰囲気であった。殿下の真新しい御墓は、亀甲模様のお椀を伏せた様な形で、周りに天皇皇后両陛下

以下皇族方・御親族のお花が飾られていた。又右側天幕には、親族として、

近衛忠輝様（日赤社長）、近衛寧子様（殿下長女・日赤副総裁）、千家容子様（殿下次女・裏千家家現家元夫人）、千家敬明様（容子様次男・次期家元）の四方で、各礼拝者に御丁寧な返礼されておられた。妃殿下が居られなくて気になつていたので、宮務官に伺うと、妃殿下は次の行事のため不在されたが、御元気で特にお変りないとお聞きし安心した次第である。拝礼は二人ずつ墓前に前進し、陪列御親族に礼をし、墓に正対して拝礼した。本葬時と違って時間があつたので、各人ゆっくりと殿下の御霊に対し拝礼をすることが出来た事は大変良かった。

妃殿下の御不在は、翌々日29日に「みたま霊代を皇霊殿に遷すの儀」が実施されたがこの事前準備のためだった。三笠宮殿下の霊代を皇居皇霊殿（賢所）にお運びしたのは、歴代天皇・皇后・主要皇族方の御霊と共に安置し、春分・秋分の日に、天皇がその御霊を祀る春季（秋季）皇霊祭を齎行するためのものであった。この儀をもって殿下の一年祭関連行事は終了した。今後も殿下のお祭りは続くが、殿下の御霊の永遠の安寧を心から御祈念申し上げたいと思いつつ墓地を後にした。

●三笠宮殿下一年祭に参列して

高橋幸子

時ならぬ秋の台風の間、10月27日に、三笠宮殿下一年祭参拝のご案内を頂き、参列いたしました。大通りの奥の森にある墓所は生垣や木々に囲まれました。中でも新しい崇仁親王の御墓は、美しく整えられ、ご親族の方々の見守られるなか、ゆっくり心を尽くして参拝することができました。

大正、昭和、平成と大きな時代の流れの中、幾多の激動の日々を過ごされたであろう三笠宮様の、真摯で前向きなお姿と、広く暖かなお人柄が思い出され、胸がいっぱいになりました。妃殿下のご健康とお幸せを、心よりお祈り申し上げつつ、都会の喧騒のなか、帰途につきました。翌日の新聞に、「三笠宮さまの思い継承」のタイトルの記事が載っていました。今年3月、文化遺産の研究などに取り組む「三笠宮記念財団」がトルコで同国政府の認可を受け設立された、という内容でした。

●卯月会の今後の活動について

衣笠陽雄

三笠宮殿下がご逝去されて1年、先日豊島岡墓地に於いて一年祭が実施（細部前掲）され、卯月会有志で参拝を実施した。今後の活動について妃殿下にご意見を聞く機会がなく悶々とした毎日であったので、私としては漸く

喪が明けた感がしている。以前、春山元委員長が私によく言われていた「殿下がご逝去された場合は、会の全財産を処分し解散する。これは全会員の総意である」との言葉が頭から離れない。それは卯月会が、上からの殿下の御指導と下からの殿下への尊敬・信頼からの強固な鉄の団結であり、そこには他人の入り込む余地は無かつたのである。また最近他の旧軍関係団体は徐々に解散等消えて行っており、残っている御遺族や関係者は、「慰霊」を主とした儀式を主活動としている団体が殆どではないだろうか。無論慰霊祭等に参加することで精神の伝承に寄与する意義はあるのだが、私は、実行は大変難しい事を今迄の活動で身を以て経験した。

今後の卯月会は、永代神樂祭参加、思い出話を楽しむ懇親会等、正会員に関する個人的研究発表・記事投稿等軽易に実施できる活動に限定されるのではないかと思われる。父や叔父等の生き方や残された功績を発掘・伝承する事は、「精神の伝承」に大きく貢献するものとして十分理解できるが、現在ご遺族や子弟等が活動されている期やその様に予定されている期は、どの様なお考えで活動されておられるのか興味がある所である。